

山口県の食材と観光資源をPR ぶちうまやまぐち総合フェア in 台湾 開催

「ぶちうまやまぐち総合フェア in 台湾」(主催:やまぐちの農林水産物需要拡大協議会、(一社)山口県観光連盟、ジェトロ山口、後援:(公財)交流協会)は、2015年9月11日、台北市内のホテル シェラトングランド台北にて開催されました。台湾でのイベントは昨年到现在に続いて2回目となり、前回は農水産食品のみで実施しましたが、今回は新たに観光分野と一緒に山口県の魅力をPRしました。



写真： レセプションでの鏡開き

本イベントは、レセプションと商談会の二部で構成され、第一部のレセプションでは、県産食材・観光のプロモーションを実施しました。冒頭では、村岡嗣政知事が、県産食材の輸出拡大と海外からの観光客誘致を図るため、来場された台湾国内の飲食業、観光業、貿易流通業など約220名の方々に、プレゼンテーション資料を使って、自らトップセールスを行いました。会場では、山口県の日本酒、みかん、のどぐろ、あんこう等を使用した料理を提供したほか、県産ハモをさばくライブキッチンを設置し、参加者にハモしゃぶにしてふるまいました。参加者

からは、「ハモを初めて食べたが、美味しい」、「山口県の地酒を輸入したい」「世界遺産に登録され注目している、旅行してみたい」、などの声が聞かれました。



写真： ハモのライブキッチン



写真： 山口県の日本酒

2014年の日本から台湾への農林水産物輸出額は約837億円であり、香港(約1342億円)、米国(約932億円)に次いで、第3位の輸出先となっています。13年の台湾への輸出額が約735億円でしたので、前年比13.8%増を記録しており、台湾における日本産食品の需要は引き続き大きいと言えます。また、観光分野においても、台

湾からの旅行者は増加しています。日本政府観光局（JNTO）によると、2014年における訪日外国人数は1,341万人、うち台湾人は全体の約21%にあたる283万人（前年比28%増）でした。今後も増加が見込まれる訪日外国人をどのようにして取り込んでいくかが課題となります。



写真：山口県の観光をPR

そして、第二部の商談会では、実際のビジネスにつなげるため、山口県からの出展事業者である農水産業関係10社（農産加工品、水産加工品、日本酒）、観光関係12社と台湾バイヤーとの個別商談会を実施しました。

農水産食品分野では、成約の確率を高めるため、事前マッチング制による商談を行いました。具体的には、ジェトロが現地で契約したコーディネーターが日本側出展者の商品情報を台湾バイヤーに紹介、バイヤーからのヒアリング内容に基づき、商談相手を事前にマッチングするものです。また、従来より課題であった商流・物流ルートの構築を目指すため、現地代理店のある出展者にはホテル、飲食店等のエンドユーザーを、代理店を持たない出展者には卸業者等を優先的にマッチングしました。一方、観光分野ではより幅広い情報収集交流の機会とするため、自由商談としました。

商談会では、観光企業の出展者が県内の観光スポットや福岡空港からのアクセス良さなどを

PR、また食品企業も山口の地酒、水産物などそれぞれの商品をPRすると、バイヤーは価格や賞味期限などを熱心に質問しており、県産品への関心の高さがうかがえました。商談数は計136件。帰国後も商談を継続する案件もあり、関係機関と連携し、より多くの成約に繋げられるよう、フォローアップを行って参ります。



写真：台湾バイヤーとの個別商談会

ジェトロでは、本商談会以外でも海外展開を検討している企業を支援しています。輸出入や海外進出に関するご相談は、ジェトロ山口事務所（連絡先:083-231-5022、Email:YAC@jetro.go.jp）にお問い合わせください。

（ジェトロ山口 内山佳世子）